

高齢者介護施設における サービスナビゲーションシステム導入による効果の検証

A study on the effectiveness evaluation of "Service Navigation System" in care homes

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 修士課程 西田真綺

1. 研究概要および、今年度の研究成果

本研究は、高齢者介護施設への介護サービスサポートツールであるサービスナビゲーションシステム（以下、sNs）導入が介護業務に与える効果を明らかにするものである。sNs 導入前後の介護業務を比較することにより、sNs が与える介護業務への影響について定量的な評価を行う。そのための分析資料の取得を目的として以下の2通りのsNs 導入前調査を行った：

【調査1】高齢者介護施設での介護職員・看護職員の行動観察記録の作成。

日程

2018年1月22日～1月26日 高齢者介護施設 A

2018年1月29日～2月2日 高齢者介護施設 B

2018年2月5日～2月9日 高齢者介護施設 C

2018年2月12日～2月16日 高齢者介護施設 D

2018年2月19日～2月23日 高齢者介護施設 E

（本研究で研究対象としている5つの高齢者介護施設に関しては、2018年2月～3月にsNs 導入を控えている施設となっている。

なお、個人情報保護の観点から施設名は匿名化している。）

対象者

上記の高齢者介護施設に勤務する介護職員・看護職員の内50名（予備調査含む）。

内訳：1施設10名（介護職員5名 + 看護職員5名）× 5施設

調査方法

観察者が対象となる介護職員・看護職員に同行しロギングツール aTimeLogger を用いて一日の全業務にかかる時間を計測。

【調査2】介護職員・看護職員に対する気分プロフィール検査（POMS）の実施。

日程および対象者は【調査1】と同様。

調査方法

気分プロフィール検査（Profile of Mood Status 2nd Edition : POMS2）の短縮版を行い、35項目の質問に対する答えを記入してもらう。

2. 今後の方針

2018年2月～3月にsNsを各施設へ導入し、一定期間をあけた2018年6月～7月にsNs導入前調査と同様の施設、期間、手法でsNs導入後調査を行うこととする。その後、sNs導入前調査および、sNs導入後調査で得られた分析資料を基に各施設別および介護職員・看護職員別にデータの集計・分析を行う。そして、sNsを導入することによる介護職員・看護職員の介護業務への影響を定量的に評価し、sNsの有用性に関して考察を行うこととする。なお、具体的な分析手法については現在検討中である。

3. 今後のスケジュール

今後のスケジュールについては以下の図1に示す。

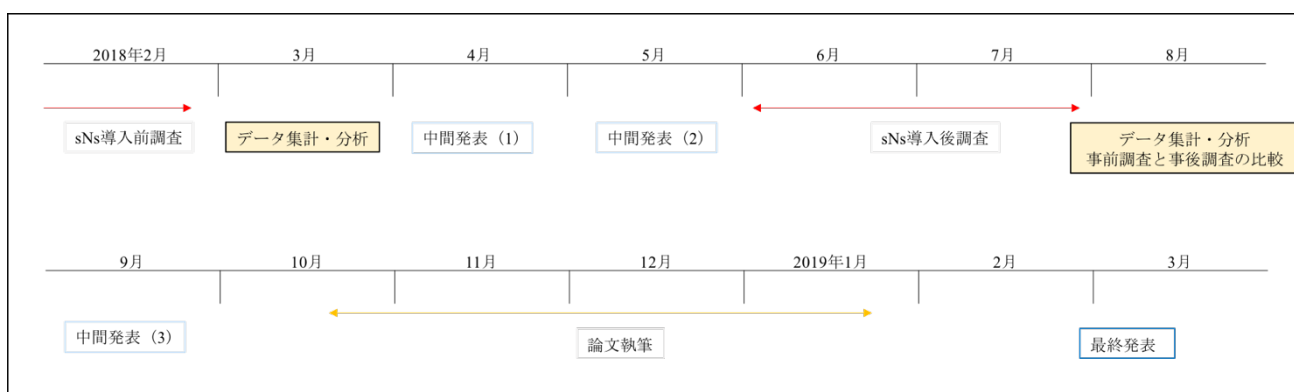


図1. 今後の研究計画